〔瓦礫雜考下〕えびでたひつる。

宋王君玉雜纂次編の愛便宜といふことの中に、將鰕釣鼈とあり、鯛（タヒ）（國書などに出たる棘鬣魚といふものタヒなりとぞ）、鼈とは異なれ共、その意またく同じ、

〔今昔物語二十八〕信濃守藤原陳忠落入御坂語第卅八

守ノ答フル樣、落入ツル時ニハ、馬ハ疾ク底ニ落入ツルニ、吾レハ送レテソメキ落行ツル程ニ、木ノ枝ノ滋ク指合タル上ニ、不意ニ落カヽリツレバ、其ノ木ノ枝ヲ捕ヘテ下ツルニ、下ニ大キナル木ノ枝ノ障ツレバ、其レヲ踏ヘテ、大キナル胯木ノ枝ニ取付テ、其ヲ抱カヘテ留リタリツルニ、其ノ木ニ平茸ノ多ク生タリツレバ、難見棄クテ、先ヅ手ノ及ビツル限リ取テ、旅籠ニ入レテ上ツル也、未ダ殘リヤ有ツラム、云ハム方无ク多カリツル物カナ、極キ損ヲ取リツル物カナ、極キ損ヲ取ツル心地コソスレト云ヘバ、郎等共現ニ御損ニ候ナド云テ、其ノ時ニゾ集テ散ト咲ヒニケリ、守僻事ナ不云ソ、汝等ヨ、〇中略受領ハ倒ル所ニ土ヲ飄メトコソ云ヘト云ヘバ、〇下略

〔太平記三十八〕諸國宮方蜂起事附備前軍事

降人ニ出テ、心ナラズ高名シツル兵共三百餘騎、生捕ヲ先ニ追立サセ、鋒ニ頭ヲ貫テ馳來リ、如鬼神申ツル桃井ガ勢ヲコソメ、我等僅ノ三百餘騎ニテ、夜討ニ寄テ、若干ノ御敵ドモヲ打取テ候ヘトテ、假名實名事新シク、コト〳〵シグニ名乘申セバ、大將鹿草出羽守ヲ始トシテ、國々ノ軍勢ニ至迄、哀レ大剛ノ者共哉、此人々ナクバ、爭カ我等ガ會稽ノ耻ヲバ濯ガマシト、感ゼヌ人モ無リケリ、後ニ生捕ノ敵ドモガ委ク語ルヲ聞テコソ、サテハ降人ニ出タル不覺ノ人ドモガ倒ル、處ニ土ヲ掴ム風情ヲシタリケルヨトテ、却テ惡ミ笑レケル、

〔閑窓瑣談一〕俚俗の異說

古くより俚俗の諺に木乃伊取が木乃になるといふたとへを、つねぐにいひ傳ふ、其の起源を